

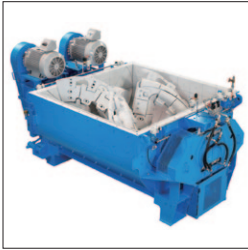
株 主 通 信

第110期 中間報告書

2019年4月1日から2019年9月30日まで



キタガワ マテリアル テクノロジー カンパニー
(金属素形材事業)



キタガワ サン テック カンパニー
(産業機械事業)



キタガワ グローバル ハンド カンパニー
(工作機器事業)

証券コード:6317

株式会社 北川鉄工所
<https://www.kiw.co.jp/>

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より、格別のご支援を賜わり、有難く厚くお礼申し上げます。

当社グループは2019年9月30日をもちまして第110期中間期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)が終了いたしましたので、当該期間の事業概況についてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、これまで堅調な企業収益や雇用環境の改善を背景に回復基調で推移してまいりましたが、米中貿易摩擦の長期化や英国のEU離脱問題などによって、世界的に景気後退の懸念がさらに強まっており、国内においても設備投資が慎重になるなどその影響が広がりつつあり、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループでは、各事業分野において、生産性の向上や積極的な営業展開、経費削減など、収益力の強化に取り組み、事業を推進してまいりました。

株主のみなさまには引き続きご理解とご支援を賜りますとともに、今後とも末永くご愛顧いただきますようお願い申し上げます。

経営成績(中間)の概要

(単位:百万円)

	第109期	第110期	増減
売上高	28,868	31,898	3,030
主要セグメント内訳			
K M T	14,145	14,525	379
サンテック	8,237	12,005	3,768
グローバルハンド	6,193	5,097	△1,095
営業利益	2,788	2,386	△401
主要セグメント内訳			
K M T	789	443	△365
サンテック	879	1,641	762
グローバルハンド	1,421	761	△660
全社費用	△332	△434	△101
経常利益	3,150	2,584	△566
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,167	1,596	△570



代表取締役会長兼社長

北川祐治

連結決算の概要

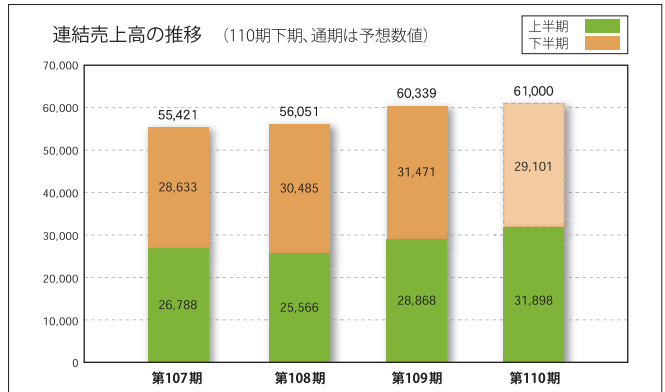
売上高



31,898百万円

前年同期比
10.5%増

サンテックカンパニーが好調に推移し、前年同期比の水準を上回ったため、全体の売上は前年同期比10.5%増加しました。



(注) 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

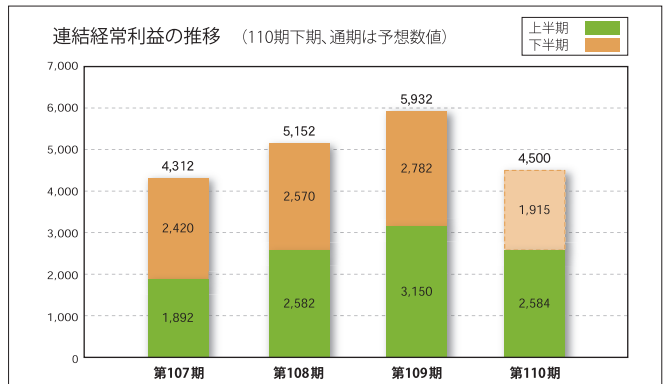
経常利益



2,584百万円

前年同期比
18.0%減

グローバルハンドカンパニーの利益が減少した影響が大きく前年同期比18.0%減少しました。



(注) 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

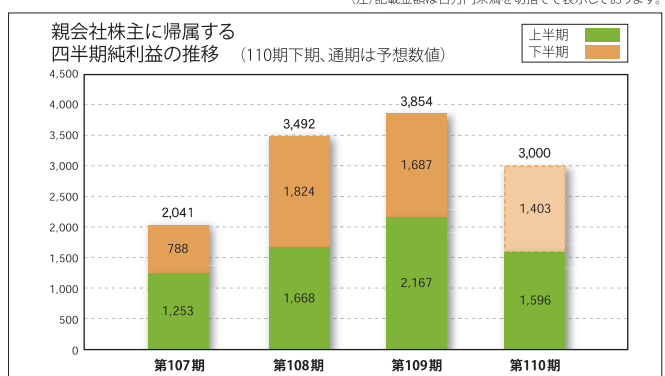
親会社株主に帰属する 四半期純利益



1,596百万円

前年同期比
26.3%減

経常利益が減少したことにより、前年同期比26.3%減少しました。



(注) 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

(注) 米中貿易摩擦の長期化などの影響により自動車関連産業及び工作機械業界は低調で推移しており、厳しい市場環境下となっております。このため、業績が前回公表時より下回ることが予想されるため、2019年11月8日に2020年3月期通期連結業績予想を修正しております。

セグメント別の概要

キタガワ マテリアル テクノロジー カンパニー (金属素形材事業)

単位: 百万円

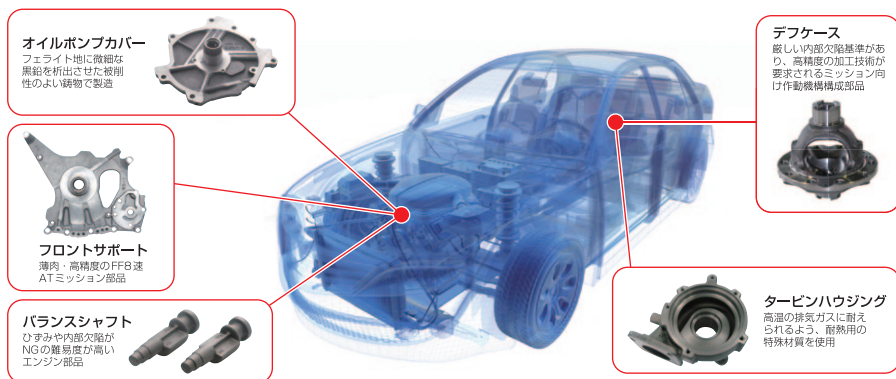
第2四半期	第109期	第110期	対比
売上高	14,145	14,525	2.7%増▲
営業利益	789	443	43.8%減▼

自動車関連業界におきましては、米中貿易摩擦の影響などにより、先進国、新興国共に自動車需要が減速しております。業界としてはハイブリット化、電動化へのシフトが進んでおり、部品の軽量化や省パーツ化に向けた取り組みが行われております。農業関連業界におきましては、引き続き好調を維持、建設機械関連業界におきましては、大型建設機械の需要が減少傾向となっております。

このような状況のもと、当事業におきましては、国内外の生産拠点との連携強化を図り、収益力の強化に努めてまいりました。海外では、自動車メーカーが米中貿易摩擦の影響もあり中国からの生産移転をすすめており、それに伴う自動車部品の新規受注活動に注力してまいりました。国内では、

当社の強みである素材開発から機械加工までの一貫生産や加工技術力を活かした新規受注活動に注力してまいりました。また、人員増強や鋳物材料の一部の値上がりなどによりコストが増加するなかで、コストに見合った価格への改定交渉、不良の低減や歩留り改善などによる生産効率の改善、外注品の一部内製化などによる調達コストの削減、福山工場加工ラインにおける自動車トランスミッション部品の安定的な生産及びライン増設を進めてまいりました。

これらの取り組みを進めることにより、売上高は前年同期を上回りましたが、利益面では国内における価格改定交渉の遅れや不良率の高止まりによって、厳しい状況で推移しました。



事業内容

生型鋳造・ロストワックス精密鋳造・エバフォーム鋳造等及び鋳物素材をベースとした機械加工品および組立完成品(自動車部品、各種機械部品)

キタガワ サン テック カンパニー (産業機械事業)

国内の建設業界におきましては、2019年度の建設投資は前年度比で微増、2020年度は同水準で推移していくことが見込まれております。一方で、鉄筋工(建築)を中心に建設技術者が慢性的に不足しており、また業界全体で高力ボルトのひっ迫した需給動向が継続したことから、工期遅れやコスト増加の要因となりました。このような状況のもと、当事業におきましては、お客様への対応力を強化すべく、顧客訪問の強化、サプライチェーンの再構築、そして業務効率改善に向けた取り組みを継続的に実施し

てまいりました。

これらの取り組みを進めた結果、プラント事業は、生産設備の更新需要が高く、メンテナンス関係の工事も活発であったことから好調に推移しました。荷役機械関連設備では、都市部の再開発向け大型クレーンと集合住宅向け小型クレーンに加え、ダム建設用クレーンの出荷もあり、売上を伸ばしました。自走式立体駐車場事業は、遊興施設や商業施設に付帯する大規模駐車場の工事が進捗したことなどにより、好調を継続しました。

単位:百万円

第2四半期	第109期	第110期	対比
売上高	8,237	12,005	45.7%増 
営業利益	879	1,641	86.7%増 



▲自走式立体駐車場



▲ダム建設用タワークレーン

事業内容

コンクリートプラント、コンクリートミキサ(商品名:ジクロス等)、環境関連設備(商品名:ペレガイア等)、リサイクルプラント、建築用ジブクレーン(商品名:ビルマン)、自走式立体駐車場

セグメント別の概要

キタガワ グローバル ハンド カンパニー (工作機器事業)

単位：百万円

第2四半期	第109期	第110期	対比
売上高	6,193	5,097	17.7%減
営業利益	1,421	761	46.5%減

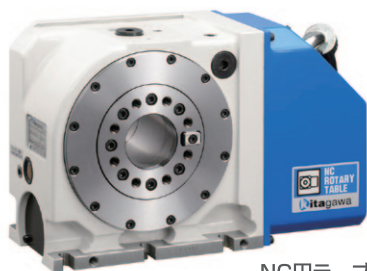
工作機械業界におきましては、米中貿易摩擦の長期化の影響により、国内外ともに製造業の設備投資は減少傾向となっております。また、自動車関連では中国を中心に売れ行きが鈍化しており、半導体関連では第5世代移動通信システムの需要などで2019年度中の回復が期待されていますが、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当事業におきましては、ロボット分野などの新たな市場領域に参入するためのチームの発足や、主力商品であるパワーチャックの高付加価値商品として開発したBRシリーズの市場投入など、積極的に営業活動を展開しました。また、海外展示会のEMO Hannover2019で新型NC円テーブルMK350、薄型2爪平行グリッパを発表し、国内においてもMECT2019に出展するなど、新商品開発への取り組みを更に加速させております。

これらの取り組みを進めてまいりましたが、国内市場では、設備投資の減少から工作機械メーカー向け、一般ユーザー向けともに低調に推移しました。また、海外市場では、中国、北米、欧州など全般的に低調であったことにより、引き続き厳しい状況で推移しました。



新型パワーチャック



NC円テーブル



グリッパ

事業内容

旋盤用チャック、油圧回転シリンダ、NC円テーブル、パワーバース、ワークグリッパ、グリッパ(商品名：Promano)

財務諸表

連結貸借対照表

区 分	前連結会計年度 (2019年3月31日)		当第2四半期 連結会計期間 (2019年9月30日)		区 分	前連結会計年度 (2019年3月31日)		当第2四半期 連結会計期間 (2019年9月30日)	
	金 額 (百万円)	構成比 (%)	金 額 (百万円)	構成比 (%)		金 額 (百万円)	構成比 (%)	金 額 (百万円)	構成比 (%)
(資産の部)					(負債の部)				
流動資産	37,962	51.7	36,976	51.2	流動負債	24,984	34.0	21,042	29.1
固定資産	35,490	48.3	35,290	48.8	固定負債	10,839	14.8	12,626	17.5
有形固定資産	28,633		28,496		負債合計	35,823	48.8	33,668	46.6
無形固定資産	503		469		(純資産の部)				
投資その他の資産	6,354		6,324		株主資本	35,003	47.7	36,167	50.0
					その他の包括利益累計額	1,270	1.7	1,130	1.6
					非支配株主持分	1,355	1.8	1,299	1.8
					純資産合計	37,629	51.2	38,597	53.4
資産合計	73,453	100.0	72,266	100.0	負債純資産合計	73,453	100.0	72,266	100.0

(注)記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

連結損益計算書

区 分	前第2四半期 連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)		当第2四半期 連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
売上高	28,868	100.0	31,898	100.0
売上総利益	5,782	20.0	5,603	17.6
営業利益	2,788	9.7	2,386	7.5
経常利益	3,150	10.9	2,584	8.1
税金等調整前四半期純利益	3,120	10.8	2,554	8.0
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,167	7.5	1,596	5.0

(注)記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書 (要約版)

(単位: 百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,328	3,566
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,350	△ 2,327
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,572	△ 264
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 30	△ 16
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 1,624	958
現金及び現金同等物の期首残高	9,977	7,509
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,352	8,467

(注)記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

株式の状況 (2019年9月30日現在)

発行可能株式総数	普通株式	30,800,000株
発行済株式の総数	普通株式	9,650,803株
株主数		9,828名

大株主株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
北川鉄工所みのり会	542	5.79
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	475	5.07
株式会社広島銀行	446	4.76
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	388	4.15
MSIP CLIENT SECURITIES	230	2.46
(常任代理人 モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社)		
みずほ信託銀行株式会社	230	2.46
GOVERNMENT OF NORWAY	201	2.15
(常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)		
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	198	2.12
(常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)		
北川鉄工所自社株投資会	191	2.04
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	181	1.94

(注) 1 当社は自己株式(287,059株)を保有しておりますが、上記大株主から除いております。

2 持株比率は自己株式(287,059株)を控除して計算しております。

会社の概況 (2019年9月30日現在)

設 立	1941年11月28日				
資 本 金	86億4千万円				
役 員	代表取締役会長兼社長	北川 祐治	取締役 執行役員	宇田 育造	
	代表取締役副会長	北川 宏	取締役	沼田 治	
	取締役 常務執行役員	北川日出夫	取締役	内田 雅敏	
	取締役 常務執行役員	畑島 敏勝	常勤監査役	河村 光二	
	取締役 常務執行役員	栗本 和昌	監査役	貝原 潤司	
	取締役 執行役員	佐藤 靖	監査役	平 浩介	

(注) 1 取締役 沼田治、内田雅敏は社外取締役かつ独立役員であります。

2 監査役 河村光二、貝原潤司、平浩介は社外監査役かつ独立役員であります。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月下旬

剰余金の配当基準日 期末配当 3月31日
配当金受領株主確定日 中間配当 9月30日

単元株式数 100株

単元未満株式の 買取及び買増

単元未満株式(1株～99株まで)の買取及び買増のご請求は下記のお取扱店でお取扱いいたします。単元未満株式を証券会社の口座に振替えられた株主様はお取引の証券会社にてお取扱いいたします。

株主名簿管理人

東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

公告方法

ホームページへ電子公告を行います。やむを得ない事由によって電子公告が出来ない場合は、日本経済新聞に掲載して公告いたします。
アドレス <https://www.kiw.co.jp/>

	証券会社に口座を お持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00～17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更)	お取引の証券会社等になります。	みずほ証券株式会社 本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗) みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店(※) (※)トラストラウンジではお取扱いできませんので ご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行(※) およびみずほ銀行の本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります) (※)トラストラウンジではお取扱いできませんのでご了承ください。	
ご注意	支払明細発行については、 右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

トピックス①

キタガワ サン テック カンパニー 新製品のご紹介

ダム建設用タワークレーン「JCD1500K」完成



サンテックカンパニーは、新たにダム建設用のタワークレーン「JCD1500K」を開発しました。このタワークレーンは、国内最大規模であり、1・2号機は既に2019年7月にダム工事の建設現場に納入され、お客さまのもとで大活躍しています。

【仕様概要】

最大作業半径	86m
最大定格荷重	25t
最大作業半径時定格荷重	18t
起伏速度	100sec
最大巻上速度	130m/min
最大旋回速度	0.6rpm

ダム建設は広大な敷地のなかで工事が行われるため、そこで使用されるタワークレーンには何よりも作業半径の大きさとパワフルな荷重能力が求められます。そこで、サンテックカンパニーでは、この要求に応えるために、これまでのビルマンシ

リーズの開発で培った技術力を結集して開発を進めました。その結果、最大作業半径86m、最大定格荷重25tの能力を有する国内では最大クラスのタワークレーンの開発に成功しました。

また、この新製品はビルマンシリーズのコンセプトである「シンプル・軽量・コンパクト」を継承しながら、従来機になかった新しい付加価値も付け加え、なおかつ輸送費や組立・解体費用といった工事全体のトータルコストの削減を実現したことによって、お客さまから高い評価をいただいております。

今後もゼネコン各社へ積極的にPR活動を行い、ビルマンシリーズと肩を並べる主力商品のひとつとなるように育ててまいります。

また、今回のダム建設用タワークレーンの開発で新たに獲得したノウハウを活かし、風車建設用などの大型タワークレーン市場への参入にチャレンジしていきたいと考えております。

トピックス②

非接触濡れ性評価装置「Wettio」を販売開始

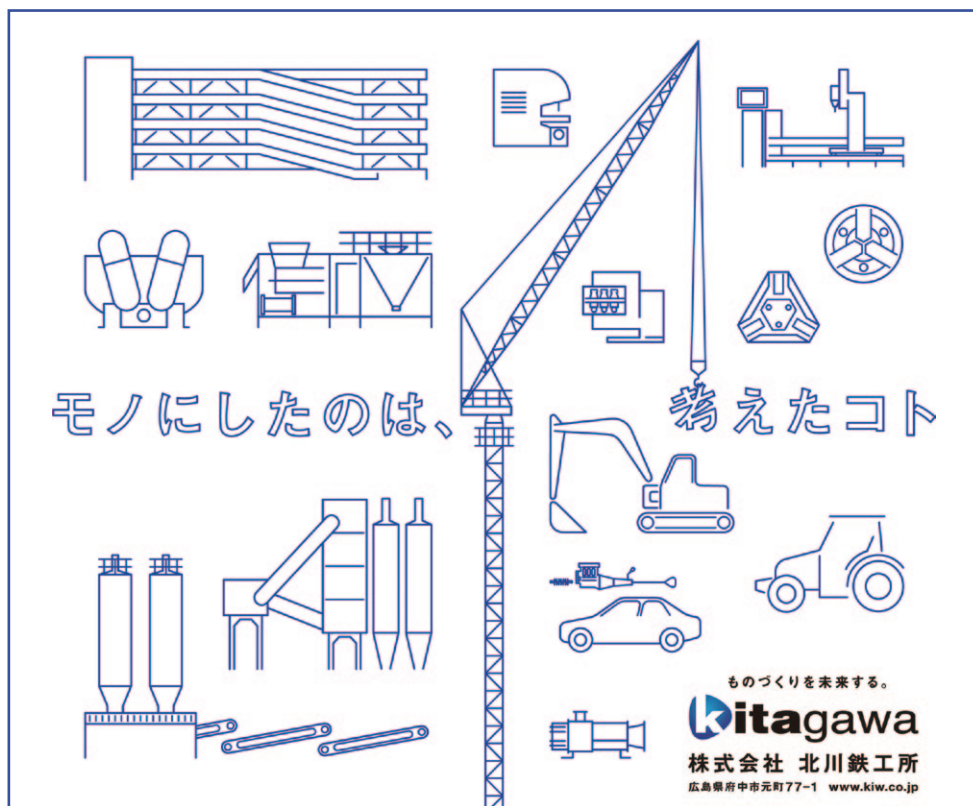
新事業推進本部で従来より開発をすすめておりました非接触濡れ性評価装置「Wettio」の販売を開始いたしました。Wettioは親水と呼ばれる水になじみやすい状態を比較評価することを目的とした装置です。

Wettioをお使いいただく主なユーザーは、企業の研究・開発部門や大学などの研究機関の研究者です。非接触濡れ性評価装置の活用分野を広げる研究は現在も続けられており、2019年5月にはイギリスの科学雑誌「Scientific Reports」に台所の流しなどに発生する「ぬめり」の原因である「バイオフィルム」の有無を評価する手法として論文発表も行われました。

Wettioは元来、弊社商品の微小重力環境細胞培養装置「Zeromo」で培養した細胞を評価することによって再生医療分野へつながることを期待し、理化学研究所と共同研究をスタートした商品でしたが、家庭用洗剤を扱う大手メーカーからお問い合わせをいただくなどその他工業分野においても注目されており、幅広い分野での利活用が期待されます。

濡れ性に着目した商品開発は、日常生活における様々な商品で取り組まれております。将来Wettioを活用して開発された商品を目にする日に向けて、多様な分野へPRしてまいります。





株式会社 北川鉄工所 Kitagawa Corporation

〒726-8610 広島県府中市元町77-1
77-1, Motomachi, Fuchu-shi, Hiroshima, 726-8610 Japan
Tel. (0847) 45-4560 (代) Fax. (0847) 45-0589

■営業拠点

仙 台 仙台市若林区大和町4-15-13
東 京 さいたま市北区吉野町1-405-1
東京 東京都台東区元浅草2-6-6 東京日産台東ビル8階
名古屋 名古屋市中川区上高畑2-62
大 阪 大阪市住之江区北加賀屋3-2-9
広 島 広島市南区東雲1-23-15 ロイヤルビル3-103号
九 州 福岡市博多区板付7-6-39

〒984-0042 Tel. (022) 232-6732 (代) Fax. (022) 232-6739
〒331-9634 Tel. (048) 666-5650 (代) Fax. (048) 663-4678
〒111-0041 Tel. (03) 3844-7101 (代) Fax. (03) 3844-7134
〒454-0873 Tel. (052) 363-0371 (代) Fax. (052) 362-0690
〒559-0011 Tel. (06) 6685-9065 (代) Fax. (06) 6684-2025
〒734-0022 Tel. (082) 283-5133 (代) Fax. (082) 285-8830
〒812-0888 Tel. (092) 501-2102 (代) Fax. (092) 501-2103

インターネット上で、いつでも最新のkitagawa情報をご覧いただけます [https:// www.kiw.co.jp /](https://www.kiw.co.jp/)